

Kamiryo's Life-Time Learning in the Last 65 Years

<https://ideas.repec.org/b/bap/ees013/01.html>

<https://ideas.repec.org/b/bap/ees014/02.html>

<https://ideas.repec.org/b/bap/heu015/01.html>

Hideyuki Kamiryo (上領英之)

目次

1. 史的源流をたずねて: 巖島 石鎚 大山 出雲大社 毛利元就の風水広島城	316
2. 三つの源流スポットについて学んだ史実から智頭宿の参勤交代まで	319
3. 竹生島を参詣して	323
4-1. 神仏融合の世界観 (その1)	328
4-2. 神仏融合の世界観 (その2)	330
4-3. 神仏融合の世界観 (その3)	331
5. 語り部への準備スタート: 2月21, 22, 23日の3日間に	332
6. 広島を風水を考える 吉村徳則	339
7. ここまでの締めくくりとして	344
8. 同級生のつどいに寄せて: 故郷の同級生さいごの会に出席して	347
9. 平和への思いとともに: 締めくくり	351
10. 個人と社会 up-dated on 24 Jan 2015	355
11. 平和と人間の社会 up-dated on 31 Jan 2015	356
12. 山口市西白石帰郷と野口源吾同級生	360
13. 二時間の前島、その出会い (2 hours in Island Mae on 13 Feb 2015)	361
14. 語り部への贈り物を頂戴して	362
15. 神田善弘先生からのお話 on 16 Sep 2015	364
16. 巖島における12神社ボート一周の機会を得て	366
17. 杣山(そまやま)ハス園から pyrrole 菌培養の勉強へ	368
18. Wish to learn the essence of Angus Deaton's (松本裕訳) "The Great Escape" 大脱出: 健康、お金、格差の起源, 2013, みすず書房, xxi+351p.)	376
五井昌久先生へ恒久平和のお願い on 28 Oct 2015	379

Historic Variety on the Earth

1. 史的源流をたずねて 巖島 石鎚 大山 出雲大社 毛利元就の風水広島城



照真秘流の唄 生前の北野勲恵作 そして真弘猯下とともに

一、人に勝つより自分に勝てと言われた言葉が胸にしむ つらい修行と弱音をはくな
これが道だよ 秘流同志

二、持った念珠に一生かけて 道は照真秘流道(どう) 行者だったらやるだけやるさ
それが佛心 ど根性

三、花と咲くより ふまれて生きる 草の心は 勲恵菩薩 すきになっては いけない恋に
泣けば雨降る 弘法寺



Hideyuki Kamiryo



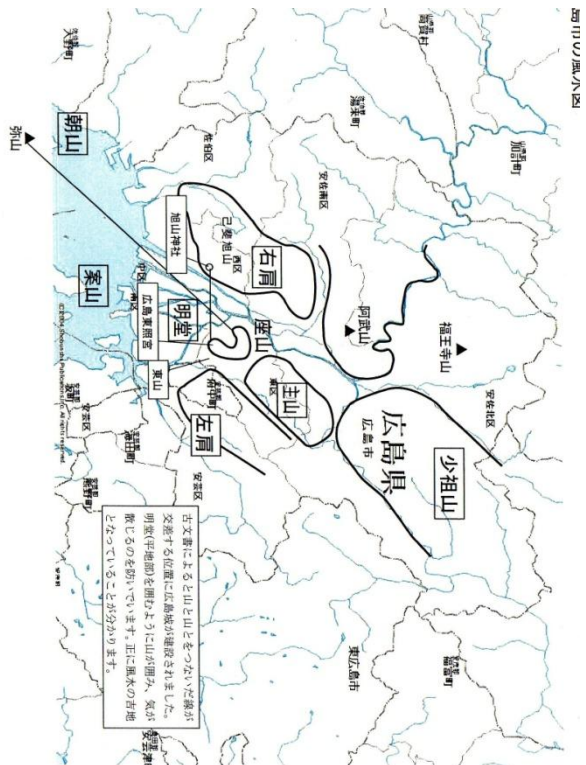
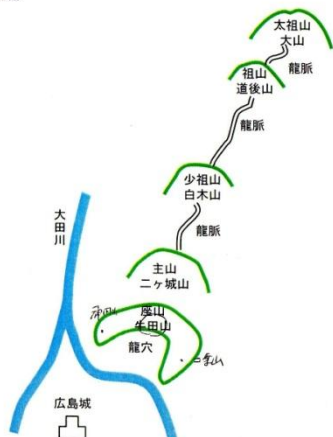
広島市の風水

風水とは

そもそも風水とは、地形や地勢を見でその吉凶を占う古代中国の地相術です。その要点としては次のようなことが言われています。

まず、秀麗大な霊山から大地のエネルギー（気）が発生するというものです。この山のことを風水では太祖山と呼びます。中国地方の最高峰大山(1729m)がそれに相当すると考えられます。その気は太祖山よりやや低い山（祖山）へ流れ、さらに平地へ向かって山並みを形成しています。その途中にある秀麗な山を少祖山、主山と呼んでいます。そして、いよいよ平地の手前にある要の山を虎山と位置づけます。これが牛田山を中心にして、東に二葉山、西に神田山と両翼を形成しています。ちなみにそのライン（龍脈）の先には日本三景の一つ宮島の弥山(530m)があります。二葉山、神田山は毛利輝元が広島城の位置決めにあたって登り、相地したことが記録されています。

広島市への来龍



上記二葉の出典：吉村徳則, as a lecturer of HSU for graduate students

Historic Variety on the Earth

大願寺・大聖院の弁財天を繋ぐ大山寺・大神山神社弁財天・大国主命並びに圓流院の氣

● 大山寺 一、二〇〇年の法灯をまもる

大山寺は、奈良時代に成立した山岳信仰の靈場で養老年間(約一三〇〇年前)に出雲国玉造の俊方(金蓮上人)によって開基、地藏菩薩を祀ったことが起源と伝わります。

平安時代には西日本における天台宗の一大拠点となり、最盛期には一六〇を超える寺院(二〇〇人以上の僧侶を抱えていた)とします。

大山寺の座主は比叡山から派遣され、こので任期を勤め、比叡山に長つて拜指、僧侶のキリア形成の場であったともいわれています。

昭和三年、四度の火災に見舞われた本堂は昭和二十八年に再建されました。現在も尚山内寺院十院、重要文化財阿弥陀堂及び弥陀二尊を初め、宝物類も数多く残され、実に山嶽の聖地として、天台でいう所謂鎮護国家の靈場として更に、中国地方一円の人々から御先祖様へ伝える寺として崇敬を集めています。

● 大山寺 塔頭 圓流院

大山寺が三千石の寺領を有し四十二支院を統轄していた江戸時代に建てられ、阿弥陀堂を中心とした西明院舎十四院の中にあります。明治の廢仏毀釈により大山寺圓流院絶、のち復興を許された現在の大山寺支院の〇〇院のひとつです。本尊は、地藏菩薩。絶は無くはさげはしないが江戸末期の中央の仏師によるものと思われる。平成二十一年の僧坊再建とともに解体修理され、甦りました。

● 画僧・唘然(ごせぜん 一七九六―一八八一)

米子市衛生の漁師の家に生まれ、幼い頃から絵に興味を持ち、地面や壁に指で牛や馬の絵を描いて遊んだ。絵師にならな夢を捨てられず、十一歳の時宇治の島に大山寺圓流院で出家し、台貫(だいかん)となりました。

大山寺近くの学舎(台貫)にけしを師と仰ぎ、仏教ももとより広く學問を身につけ、やがて圓流院々主となり、法務の間に書画の研究も行なうようになった。新しい画面を創り出しました。この時期には、大山寺における〇〇年間に見聞した事を漢文で書き記した「大山雜記」を完成させ、現在大山寺本堂境内に残る「諸佛供養塔」の碑文も書いています。

晩年は病のため大山寺を辞し山を下りましたが多くの書画を残しました。その人柄にまつる数々のエピソードには、何ものにもとられない自由な曲風、力強い書風はたいへん優れ、人々は争ってその作品を秘藏しました。

● 一口八態妖怪天井画

大山の「パワースポット」(本堂で「大」の字になり「パワ」の充滿を)

「からす天狗」は大山のシンボルです。水木先生が「米考」を折念し、圓流院のため絵筆をこられた渾身の作です。

妖怪は、もともと神さまであり、仏さまです。この神さまたちは、万物に憑依し、子とただでなく、大人も規範、規律、教え、戒め、たしなめなどの働きとして怖いもの、愛しいもの、または大事にしなければならない畏敬の対象として身近に存在しました。しかし、時代とともに忘れ去られおじいさん、おばあさん、おはあさのいない核家族でわがし話や、対話もなくなり、ゆとりのない社会、心の荒廃の中で立場、行き場をなくさまよっていました。ところが、水木先生の「幸福園」で妖怪たちは躍り、まちを活性化し、多くの人に元気、しあわせ、よろこび、えがお、こころおおい、いやしを与え、まかせ、神さまの世界(神仏習合)に復活しました。妖怪さまは、開運の守護です。本堂で「大」の字になり開運の妖気(シャウ)を浴びて下さい。

● 阿弥陀堂(国の重要文化財)と西明院谷

阿弥陀堂は、西明院谷の信仰の中心でした。大山寺に現存する寺院の中では最古の建築物です。平安初期に創建、藤原朝に建立され、一五二九年山津波で倒壊。その後一五五一年現在の場所(再建された)といわれる室町末期の建造物で香樟造(けしげ)と書き、木造阿弥陀如来三尊(平安後期、一三三二年大仏師良田作)と共に国の重要文化財です。



阿弥陀三尊像



水に浮かぶ仏間と妖怪天井



水木先生渾身の作 シンボル「からす天狗」



唘然画



本尊地藏菩薩



大山寺

出典：関係寺院小冊子



出典：巖島弁財天は、吉村徳則(左)、出雲大社大国主命は、画はがき、著名 す(右)

2. 三つの源流スポットについて学んだ史実から智頭宿の参勤交代まで

「自然の流れ」を知ったのは、厳島大聖院の横に流れる谷川が滝を作っているところでした。そのすぐ上の平らな場所に、台風で流された神社が再建されていて、ヒノキのにおいも真にすがすがしく感じられました。そこで聞いた話です。このあたりは蛾が大発生した場所でした。蛾を退治するため、大量の化学薬品が散布されました。ところが、その蛾は半年後、広島旧市内に飛び火して、大発生しました。科学的には、原因追及はできないため、これは自然の摂理からの警告とされており、人間が大宇宙から離れて、狭い考え（自然まで制御できるという思いは、その際たるもの）にとらわれると、そのしっぺ返しがあるという事実をお伺いしたのです。対症的な後追い方法論の限界でしょう。わずか25年のでっかい陽（平清盛）が陰転後のあと、なぜ800年以上今日に至るまで、厳島の住民が自然を生かした生業と商売繁盛とをつづけてこられたのか。弁財天様が謙虚にという論しをされても、清盛は、絶頂の時期には、昔を忘れて、聞く耳を失ったと大願寺の画に描かれております。これは、陰陽の極端な例であるかもしれませんが、6次元のわれわれの結果の世界は、こうして、いつでも、どこでも、バランスしているといわれております。5次元の元の世界でも、すべてが逆のようにみえて、事実は、常に中庸への限界近くでバランスしているといわれております。この摩訶不思議な事実は、2次元という平面に限定した科学的な世界に押し込めて、数学と幾何学とを融合させても、全く変わりません。幾何学文献に一般的な双曲線グラフを少しだけ左右どちらかに回転させると、*hyperbolic functions each reduced from endogenous equations* が新しく示されます。平面上のx軸とy軸との交わる一点、すなわち、原点は、筆者の初出の主張ですが、中庸を示しております。そして、垂直・水平漸近線に接近すると、最適状況が精緻に測定できます。

幾何学においてイラストだけされる極大点・極小点、また、代数学において、微積分を駆使して、式ごとに異なる前提のもとに *estimate* される極大点・極小点は、統合される方向です。極大点・極小点は、全体的な最大点・最小点に止揚されます。数学の世界では、幾何学と代数学とが急速に統合の証明をつまびらかにしたという報道が昨年です。実をいうと、経済学や経営学は、数学のもっともきびしい環境よりも、はるかに真髄に触れやすい、恵まれた学問的な環境にあります。学問の究極的姿を暗示しやすい環境にあります。経済学と経営学とは、マクロとかミクロとかいう故郷を雄飛して、社会科学の核に収まりやすい環境にあります。なぜでしょうか？それは、市場原理が浸透している世界がその研究対象であるためです。ただし、市場原理は、それほど甘くありません。両刃の剣です。なぜでしょうか？市場原理は、太古に人類が物々交換のために設けた貨幣と密着不可分です。貨幣は、実物世界を対象にするかぎり、物々交換をもっとも公平に測定します。いくら裏の世界が存在しても、それらの裏世界は、ゼロ・サム世界として、完全に区別されます。それは、*money-neutrality* として、10年国債利回り・M2・為替相場を63年にわたり、83か国と3地域平均値を通して、筆者の証明してきたとおりです。しかも、国ごとの国民性・文化・歴史・地域文明は、それぞれの個性を維持でき、その上に、内生技術進歩率を、人口推移と無関係に確保します。

Historic Variety on the Earth

ややこしく見える科学的接近を巖島のもとに戻しましょう。毛利元就は、広島に築城するとき、数百年先までの城の安泰を祈願して、石鎚山と大山と巖島とを結ぶ不思議な氣脈を研究したと伝えられております。そこには、氣の源流が脈々と連なっていると、風水の吉村徳行氏によくよく伺いました。広島の大黒門は、今の二葉山です。その山頂あたりまで上ると、一般の人にも肌を感じられるすごい氣の伝わるのは、なぜでしょうか？すべては、一般論で片付けられないという答えです。全体と個とは、個がもとにあるとしても、繋がっております。島国古来の農耕文化・八百よろずの神々との絆を、かりに無視して、金万能の一面のみを強調してみましよう。それは、実際の世界であるように見えても、ある一面にとどまります。全と個との融合という宇宙のしゅみに目をつむると、その結果は、どうなるのでしょうか。現実であっても、瞬時にその結果を見せております。それだけでも、それ相応に、つねに、バランスを維持しております。どんな立場にあっても、敵も、味方もなく、ひろく公平です。そでいいのかという疑問はどうでしょうか？そのような現実の側面を払底することは、ほんとうに仙人になれるというに等しいことでしょうか？現実の側面と仙人の側面とは、両極端とか人の宿業とかいって片づけるだけでは、解決には決してなりません。その解決を頭に入れながら、すすめましよう。

不思議な縁で、中村和夫（錦川鯉）氏とは、数年前、石鎚神社中宮成就社に参詣した帰途、バスを待つふもとの店で偶然出会いました。25年5月3日、御礼参りに、極楽寺、その翌朝早く、成就社近くの平らな場所から日の出(5:02)を拝したあと、成就社と奥・前神社をたずねて、衝立山にも歩を運びました。そして、最近、中村和夫氏と吉村徳行氏とともに、ゆっくり話す機会に恵まれました。その折の話から、中村和夫氏は、石鎚山塊のけもの道を、ただただ清い水をもとめて徘徊を続け、修行命を保ち得ました。そして、筆者と、ロープウェイそばのバス停土産店で会ったのでした（あとになって、この事実を知りました）。そういえば、原爆供養の行事等の場では、筆者がたまたま出席すると、いつでも、その錦川鯉氏をお見かけしてきました。錦川鯉氏は、一昨年末までは、被爆者園長宇野利枝さんを、五日市の音楽家中川ファミリとともに支えてきておりました。

吉村徳行氏ご夫妻とは、昨年5月末出雲大社を参詣、昔さながらの「すたに旅館」に2泊、古代史を中心に、60年に一度の大社遷宮・稲佐の浜・日御崎神社・歯固めの清水ほか、勉強の機会を与えられました。7月29日は、一人旅ですが、米子の花街道・花壇をみて、びっくり、30日は、宝珠山の下・中・上の峠をやっと越えて、ユートピアン避難小屋まで、足をのびしました。大山と愛媛の石鎚との深い縁を、足を通して、鋭く、生に感じました。大山の大神山神社には、弁財天様と大国主命とが祭られていました。大山寺内の円流院の住職は、大聖院のご当主と極めて親しい関係ということをはじめで知ることができました。その源流については、吉村徳行氏にバトン・タッチさせてください。また、石鎚山塊については、中村和夫氏に貴重な記述をお願いいたします。また、山岳部を現役としてリードされている修径会近藤道明氏には、山々を対象に、共稿をもくろんでいます。

Hideyuki Kamiryo

2013年9月10日、はじめて智頭を訪ねました。智頭（チズ）宿の河内屋旅館に3泊して、参勤交代の宿場の雰囲気につかりました。鳥取の城主が通った旧道沿いです。岡山の池田城主の別れが鳥取城主です。それ以前の鳥取は、雲南に本拠をもった尼子氏の支配下と知りました。島根と鳥取とは切り離せない一つの地域であることを、歩いて勉強しました。河内屋旅館から歩いて3分の石谷家住宅は、林業で巨利を得た富豪の屋敷、その建物と二対の庭はその借景に牛臥山をみての、素晴らしい文化遺産財です。多くの書画が飾られております。その場で写した文は、天空布袋図、堂野夢酔作の墨です。一筆のまる（円）とともに書かれておりました。

円相は仏性の象徴。。一筆の墨に滲んだ
始めも終わりもない一円相の動と静
円は欠けもなく余りもなく
宇宙の森羅万象を現わすと言われる
布袋尊はあるがままの生き方に
安らぎを日々の喜びを教え実践した。。
天空を仰ぎ宇宙と渾然一体となる姿は
見るものを無心の境地に誘う

10日の午後、農業高校の前を通過して、桜の巨木が30分続く街道沿いのあと、山側に奥まった、『杉神社』を訪ねました。この神社は、杉を祭神とする全国でも珍しい唯一の神社です。その奥には、龍大明神が滝の姿そのままに森のせせらぎを伝えてくれます。杉神社の創建者は米井信次郎翁、昭和30年10月と碑に刻まれております。杉神社の入口には、『智頭の緑化は伊達ではないぞ 千万植えて生き抜こう』の氣迫ある大石が鎮座しております。智頭宿は、まさに杉とさくらとともに栄えた集落でありました。

11日は、午前中は牛臥山に登りました。展望公園までは、楽でしたが、あと900mが相当のけもの道、けわしくて、真剣になりました。幸い、頂上らしい地点で、一人の登山者にはじめて会ってほっとしました。でっかい鹿が80°の傾斜を降りる姿に妄然として、あっという間に転びました。3時すぎ、白河郷に似た板井原に、日本の原風景を見に行きました。帰りは道に迷って逆方向にすたこら、すたこら、気づくのが遅れて無駄足を重ねました。すでに、真っ暗、ネオンの輝く、観光の町、智頭宿にたどりつく途中は、森のなか、クマに出会わないように、走れ、走れ、孝太郎、と大声でかけ降りました。いつまでたっても、走れ、走れ、距離が短く出ていると疑いました。お粗末の旅は、なんとか道、闇夜のなさけ。

いままで、参勤交代は、筆者には、中央の引締め of 道具という感触がありました。しかし、智頭宿で納得できたのは、参勤交代は、そうではなくて、中央と地方、地域、山村とをつなぐ **communications system** として、また、**families** や **communities** から国にとりい基盤づくりには、不可欠ないいアイデアであったのだという思いです。現場を知らずになにもできないという事実を可視化するには、長い道中を皮切りにそれが中央のなかに持ち込まれるという **practice** がなくてはならないのでしょう。**Theory=practice** を地で行く実践そのものです。内生の本質にふれて、うれしさに変わりました。

Historic Variety on the Earth

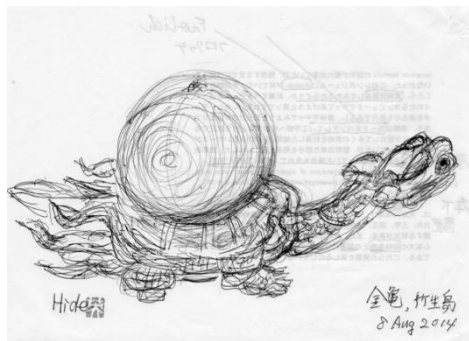


智頭 岸本 眞澄 氏提供の写真3葉



3. 竹生島を参詣して

竹生島は、日本三大弁財天の中央にあり、その地の寶巖寺の和尚さまは、毎年6月22日、巖島大願寺(明治4年までは、神仏一体の巖島神社内)の和尚さまと江の島弁財天の和尚さまとともに一堂に集まって、ご開帳のときと記されております。神仏融合の歴史的史跡です。2014年8月8日、長浜港から数時間の登山を果たすことができました。都久夫須麻神社から海岸に降りる手前に、弘法大師の洞がありました。入唐のあと、大宰府で3年間、上京のお許しを待つ間、巖島、湯来の湯の山、野呂山には、再さい登山されたことが知られております。なかでも、湯の山大明神のよこには、弘法大師の大同2年(西暦802年)の般若心経を収めた石碑が立っております。湯の山大明神は、初代浅野長晟公(1619-1632)が帰依されて、すべての建築物が整い、再建は、七代吉長公との記載が現存しております。これらの史実(現在、国の重要有形民俗文化財)は、上記弘法大師の洞にも詳しくしたためられていて、縁の循環の深さに畏敬を感じました。縁は、円や球に通じるとか、竹生島には、至る所、球が金泊に包まれておりました。

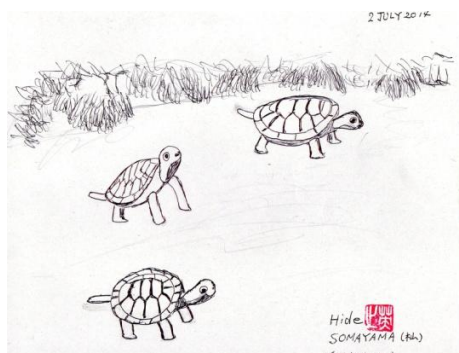


はじめに、2.との繋がりを考えてみました。中央とか中点という key word です。双曲線のメカニズムでは、中点は、原点、大自然の神の領域です。人は、そこに近づくことはできても、近づき過ぎると、跳ね飛ばされます。あるいは、一瞬の間もなく、飛び越えて、反対側にいきます。陽から陰に、あるいは、陰から陽に反転します。原点は、中庸の極致です。測ることはできません。双曲線のメカニズムは、陰陽の哲学、理論、実際、歴史、文化を融合させる力をもっております。さらに、西洋文明と日本固有の農耕文明とを繋ぎ、八百万の神々(無数のたて糸)と無量の化仏(無数のよこ糸)とを人知をこえて紡ぎ、融和させる機能をもっております。その要諦は、*Hyperbola Economics towards a Utopian Economy in Reality, 2015* の幾何的2次元(代数的内生式に対応のダイアグラム)に86国, 1960/90-2013, を計測して、まとめております。

出雲大社と伊勢神宮との中地点は、どこでしょうか? 牛窓の宇佐神社と出ております。牛窓は、外国との接点でたいへん栄えた、東洋のエーゲ海として美しい地域です。

Historic Variety on the Earth

前に、前島、その奥に、小豆島が展望できます。竹生島の寶巖寺は、まさに、巖島・大巖寺弁財天と江の島・最福寺弁財天との中地点でした。4000年の古代に遡ると、南越前町は、杣山(そまやま;「そま」は、木辺に山ですが、当用漢字には出ません)の道明寺系がありました。いまは、花はす公園、その種類は全国一とか。古代文明の中核の拠点は、巖島とそまやま・今庄の二つであり、弁財天であるという言伝えがあります。現存最古の弁財天は、今庄ちかくにありました。その村落(200mの道路沿い)がいまでも、年一回のお祭りをしておりますことに、感銘を受けました。



2千年たっても、芽の出るハスにも、両親が存在しております。左上の蓮花は、お祝いに献上されたと記されております。湧き水の流れる川には、亀の3体がおかれていて、ほほえましいです。悠久の小川です。産業革命の担い手であった Manchester(Royal Economic Society Conference, 7-9 April 2014)では、都心の中央駅から15分ものると、自然の小川が線路沿いにながれています。よくみると、いろいろな川魚がキラキラ泳いでいます。それだけ、自然に帰る気持ちを国民が自覚している有様を、中央駅から360°どこでも、家族の日帰りだんらんのなかに認識できました。時間経過にみられる陰と陽の実体です。

牛窓の宇佐神社では、その長い参道に、古代史につらなる説明板がいくつか出ておりました。年齢に無関係に、多くの家族がその歩道をおもいでおりました。農耕の先祖が繋がっていることのひとつの姿に思えました。牛窓の民族資料館の入口には、鶴と亀が尻にひかず、仲良く、びっくりでした。昔の我が国表玄関ですね。



そういえば、尾道西国寺は、中国・九州・四国にある 400 寺の総代を務めたと出ております。寄進の桁違いをおもわせます。あと 1 頁です、その中身を中庸のみぢかな態様によって締めくくります。

ある方からいただいたメモには、『薫酒山道に入らず 禅宗の寺・天台宗』とありました。

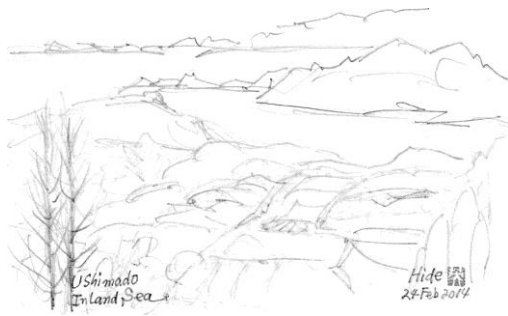
双曲線メカニズムの場合、その核にある哲学は、宗教的表現のいかんや宗派的表現のいかん、先祖ルーツ的表現のいかんを問わず、陰と陽の組み合わせがあらゆる場と時間のなかに、それぞれいくらかでも存在しており、しかもそれぞれの数値レベルを計測します。

たとえば、食べ物、自分が選択して、口に入れる最高の妙薬です。そうあっても、なぜ玉ねぎはだれにもすばらしく、ニンニクやネギがそうでないのでしょうか？見聞したところでは、同じ陰性でも、おだやかな野菜と相当きつい野菜に分かれます。玉ねぎはもっとも中庸に近いおだやかな野菜です。名医は、相手によって法のかわりに、薬を処方します。もっと経験した名医は、体の循環機能をほんの少しだけ、少しの期間だけ投与します。

もしはじめから、相当きつい薬をいただくと、体は、その副作用消去にある割合を割き、また、からだにある本来の回復力をその薬にゆだねてしまい、楽をします。体に楽をさせることは、中庸の精神から外れます。

中庸とか薬への理解の真髓は、じぶん自身ではなくて、相手や社会へのために働くこと(社会が楽になること)とされているとおりでしょう。give first and be given nest は、現生利益というご褒美を少々味づけした、一つの入口でしょうか。

Historic Variety on the Earth



さらにつめると、男子は陽、女子は陰とします。同じ男子の体が陽ならば、心は陰ですし、逆は逆です。同じ男子の人生をみても、時間は陰です。赤子のときは、もっとも赤く、氣力がすごい。だんだん皮膚の色は薄くなりますし、向こうの世界に移動のときは、白から透明です。同じわずかの時間でも、中庸との距離はたえず変動します。その奥には、動かない平らな穏やかな姿があります。色でも、ピンクはおだやかで元氣になりますが、濃い色は、激しく、きつい作用とか、いろいろな解釈が出ております。

人体には、五感が働いています。そのなかで、自然そのままの感は、嗅覚であって、海馬が皮膚覚と脳覚との繋がりを自然 100%の嗅覚に導いているとされています。絶対の自然は、人間にだけ、四つの感覚を与えたようです。個人の自由な修行に、自己責任としての考えや、ゆとりを与えたものとして、それを認識するか、自覚するか、実行するか、否かも、また自由なのですね。

考える生物は、人間だけで、すべての生物は、本能＝自然です。逆に、最近になると、科学の進歩というふれこみが垣間見えて、氣力を電磁波・テラヘルツ波として、氣力増進とか癒し補強への私的活動がにぎわっております。

事実は、自然からの力を弱め、人のありようを物質に依存させるものでしょう。3年で新卒が会社を辞め、労働意欲が嘆かわしい限りという上場企業の認識は、裏を返せば、新卒が自然から遠のいている本質があうでしょう。ドラッカーが警告した終身雇用制度という玉手箱をグローバル化という言い訳のもとに、捨てさせた結果のごく一つにすぎません。もちろん、そうでない新卒と企業は、歩いてみると、山ほど実在しております。

中庸の真髓は、究極的には、あらゆる経験を積んで、その人生を全うし、顔が自然にほころび、ニコニコするような心の平安に行き着くことと理解されます。科学の世界は、3次元までですが、最近、それを乗り終えて、現実の姿を見ようという研究が MIT Tech Communication に出始めております。それは、現実からの科学的なアプローチです。研究者は、すべてそうしたアプローチです。

また、次元まで、本来、場を示すとされ、時間は場の一つの表現とか、云われております。

Hideyuki Kamiryo

双曲線メカニズムの場合、現実からの科学的なアプローチを決して否定しません。というのは、内生のシステムと現実のシステムとは、裏腹です。どちらからみても、その真髄は、微動もいたしません。現実のデータは、内生のデータの範囲内で動くことが2次元の幾何学において証明されているためです。なぜでしょうか？

人類はその当初から交換手段として、お金を使ってきました。それは、市場原理といわれております。市場原理は、人知を超えて値付けを商品・製品・サービスの品目ごとに公正に提供します。市場原理と融合しえない理論は空論です。ただ、タテ割でするので、システムとしての限界を露呈します。その最たるものは、原因を決して明らかにしません。後講釈はいつまでも続きます。内生のシステムは、融合の本質をもち、因果をシステム全体として、測定できます。KEWT database series の明示するとおりです。

内生のシステムは、同時に、宇宙と地球とを繋ぎます。どのように？究極的には、前篇に触れた宇宙論になりますが、その一歩手前に、地球世界の融合と持続的循環が存在します。その循環は、日本の陰徳が表に出ないで、すべての国が平和に生活できる仕組みです。すべての国を立てて、内生の実質技術進歩が、人口の増減や大きさとは無関係に調和できます。日本の陰徳は、古代からの独特農耕文明から必然的に導かれております。しかも、どこでも、必ず質問するのですが、広島という地名を知らない国民や人びとはおりません。多くの人びとは、日本が地球のどこに位置するのか知りません。

原爆の最後の経験地、広島と長崎です。人類が自然に近く、幸福に生活するカギを広島と長崎に与えられております。その修練をへて、宇宙全体との平安・平和が保証されるという段取りと理解されます。インドの哲学史家がすでにそのことを公にしている、びっくりしました。心にあると、やがて実現するのは、必然的プロセスです。これこそ、大規模土砂災害(20 Aug 2014)の慰霊に時空を超えて繋がると信じております。

竹生島の見取り図、文明の歴史とともに

29 Aug 2014



Historic Variety on the Earth



4-1. 神仏融合の世界観 (その1)

24 Feb 2015

3回のシリーズとしてまとめる意欲を昨23日に自然に起こしました。(その1)は、23日の本教西教会の例会に発して、自分の半生の体験に敷衍致します。(その2)は、たまたま目に入った、ひろさちや『空海と密教』(1952, 227p., 祥伝社)です。その青い帯には、「高野山開創1200年の年に空海の生涯をたどり、空海の生き方を学ぶ」と、白ぬきに書かれております。『空海入門』は、中央公論社(現在の新社)文庫本化(1984年1月)のあとをうけて、その3月に、祥伝社から上梓と、『空海と密教』の「あとがき」に記載されております。ひろさちや氏は、1936年大阪府生まれですから、戦中派ですね。その年、私は小学校年生です。次が1300年祭として、100年に1度の機会に恵まれるのは、一般に容易ではないことです。私の意図は、(その1)に滲み出るように、心掛けます。

(その3)は、自宅から近い、川沿い散歩道の山手にある高野山真言宗(明治4年、巖島神社から分離された大巖寺に直結)のお寺が企画している2泊3日の高野山参拝(5月7日から9日までのバス旅行)です。

(その1)に戻り、昨日を原点として短く纏めます。現住所、五月が丘の氏神さまは、石内の八幡神社です。毎月23日は、伊予石鎚神社の分社である石鎚本教西教会のお祝いのよき日です。昭和4年、石内氏神さまの近くに、分社化・お祭りされて、70周年になります。「本教」というわけは、神仏融合をはじめて確立されたご縁から、そのように命名されていると伺っております。私は、なぜためらいもなく、そのみ教えに共感して、23日の例会にできる限り参加させていただいてきたのでしょうか？

Hideyuki Kamiryo

その原点は、銀行員から九州産業大学教員に転職した、その日にあります。1986年4月2日(月)の昼休みのときに、LL教室をたずねました。なぜ英語の勉強をしたいと希求したか、その心境は思い出せません。そこで、アルバイトしていた因幡明洋さんに、相談したのです。明洋さんは、東京からの単身赴任では、と自宅の両親の家に、毎月誘ってくれました。そのうち、「姫路からえらいお坊さん北野恵寶・真弘夫妻が来られるので会ってみては」という誘いを受けて、生涯の第一の縁がそのときに確定しました。

同時に、南に私の本命があると、私の問いに答えてくださいました。恵寶猊下は、国連人権委員会の終身会長でありました。日本からチベットへのはげしい仏法のダライラマ修行は、有史以来、121名がトライしたと云われています。そのうち、生きて帰国できたのは、明治以降では、河口慧海猊下のみです。人体の解剖ができず、医者という資格に欠けるためです。ウソをつく、千尋の谷底に落とされます。恵寶猊下は、シアトルの大学で脳医学のPhDを取得、帰国後は、慶応で教授として就職が約束され、当時の脳医学最先端をいく俊才でした。くわしいことは、以上にとどめて、恵寶猊下の教えは、仏教でありながら、神に対する畏敬を常に唱える神仏融合の心構えでした。また、真言宗の管長に選任されたとき、「弘法大師の教え、阿弥陀如来のなむあみだぶつを唱えてはいけない高野山には止まれない」といって、姫路の本覚寺の再建に没頭されました。

そこには、昭和初期に軍部から東大を追われた脳医学の第一人者教授の位牌がありました。1985年には、本覚寺とは別に、姫新線のチベット、千本に弘法寺の建立を始められました。授業のない春休みや夏休み、弘法寺に寝泊まりして、昼は境内の草とりと塔婆書き、夜は、自分の勉強をつづけていました。京大の脳医学の教授が、ソフト科学の進歩でしょうか、恵寶猊下の理論が実際に証明できたと、報告にときおり登山してきておりました。

恵寶猊下の法話は、いつも、実行だ、初心忘れるなと締めくくられました。わたしの理論＝実践＝歴史的感覚 **with purely endogenous** や流派にとらわれない直感は、こうして育成されました。いま、みられております。今朝は、早く忘れないうちに、本稿をせかされて、順調に本筋を書き始めております。たしかに、唐の時代には、日本の僧侶は命をかけて、唐の高僧のもとに、教えを受けに行っております。また、逆に、唐から高僧がきております。その高僧は、6回失敗して、失明したのに、7回目に鹿児島に上陸しております。わたしは、その崖を見にいきました。

宗派は、その道だけが唯一といいます。初心者が藁をもつかむ心境で現世利益と私利私欲にとらわれるのは、人として当りまえです。ただ、それぞれの宗派の奥には、共通の真理が隠れているのも、事実でしょうか。そこに、神仏融合への得心があると理解しております。たとえば、先祖供養こそ、すべての宗法の基に厳存しています。それは、本質的に大切な教えです。供養と感謝との俊別こそ、要でしょう。しかし、現実には、迷う靈魂が、オーラの輝くこの人にと頼ってきますと、その人は、苦しみます。さわらぬ神にたたりなしと、いわれています。しかし、その場合、すべての大元は、筆舌に尽くせない修行をされた阿弥陀如来ならびに、その両親の法蔵菩薩夫妻です。阿弥陀如来こそ、安心して、頼れますと、愛を持って伝えると、その霊は、素直にその事実を受け入れる場合、かならず救われて、大海原に出て安心立命を得得する由。その場合、私個

Historic Variety on the Earth

人としては、それではし真宗そのものかと問われるならば、否と答えます。僧侶の聴聞さえすれば、簡単に安易に救われるのはおかしいと思っております。聴聞=実行としての立場をとらないためです。また、僧侶自身も幅広い体得を積み重ねて、相当に修行しないと、途中までしか行けないはずで。そこに、菩薩と如来との区別が存在しております。悪人も平等に救われるのは、かまいません。しかし自己反省と懺悔を伴わないと、一定のラインを乗り越えるのは、むずかしいのではないのでしょうか。

本当の感謝さえあれば、それでもかまいません。その感謝こそ、もう一つの要ですが、これは個人責任です。誰も、助けることはできません。神様すなわち、絶対神は、それを見通して、その要諦を人間にわからせようと、見守っておられるはずで。八百万の神々ならびに、無数の如来・菩薩は、その機能別に存在していて、神々は人の途を、また、無数の如来・菩薩は、家庭の道を分けて、最終の絶対神が地球と宇宙を統括されていると、五井昌久先生(親鸞の生まれ変わりとかの存在)は、その図を描かれております。惠寶猊下は、菩薩への途をひたすら実行なされました。実行の究極の先は、口にはされませんでした。世界の平和であったと理解を致しております。

4.2. 神仏融合の世界観 (その2)

26 Feb 2015

(その2) 2月26日、はからずも購入できた、ひろさちや『空海と密教』(1952, 227p., 祥伝社)の引用をベースに、しかと史実を確認できたらと想います。『空海入門』から31年ぶりの待望の新作です。「あとがき」にあるように、ひろ氏のすべては、空海に近接して学術的に探究を深めています。ひろ氏は、空海こそ、徹底して人間らしい生き方をしたと理解しております。それは、実践そのものですね。また、ひろ氏は、『仏教とキリスト教』(新潮社)を出版して、宗教の奥に存在するエッセンスを探求しております。

はじめに、とびらの最後の一節を引用します。

この本は、空海という平安時代の高僧を、われわれ平成の時代に再登場させ、われわれが真実の人間らしく生きるためには、どうすればよいかを教えてもらおうと試みたものです。どうかあなたも空海のような密教人間になってください。そうすれば、あなたは、現代にあっても、ゆったり、のびのびと生きることができますよ。

ひろ氏の章立ては、九つです: 1. 大学を去る空海、2. 徘徊する空海、3. 海を渡る空海、4. 密教を完成させる空海、5. 帰ってきた空海、6. 傍若無人の空海、7. 任務のない空海、8. 僧に専念する空海、9. 山に眠った空海。

私は、ひろ氏のような立場のしっかりした人間ではない。それこそ、一介のせせこましい、猪突猛進型の風来坊にすぎない。検証することは、できないし、そのような気持もない。そうであるが、ひろ氏とは、ややニュアンスをこととした感覚を、弘法大使に抱いている。生ける仏であり、菩薩であると。問題を二つに限定して、わずか1頁の紙面を生かしたい。

Hideyuki Kamiryo

第一は、ひろ氏の 5. 帰ってきた空海への補足(ibid., 104-110)です。第二は、7. 任務のない空海(ibid., 155-160)への別の見方です。二つとも、私は、なんどでも、現場にいつては、尊敬の念を新たにしております。まさに、地でいく菩薩行ですと。

第一は、唐からの帰国後の 2 年間です。私が広島県内で石碑ほかでいつも凝視する史実は、5. 帰ってきた空海のなかに記載されている空白期間と十分に整合しております。太子は、巖島山頂の弥山、現在の廿日市市内湯来隣接の湯の山地区、弥山の対岸に立つ野呂山ほかの史跡を跋涉しております。当時としては、空を飛ぶような活躍です。行く場、行く場で、傷ついた鳥のように、その場所を突き止め、温泉を掘り、立ち上げては、すべての生物のために、役立てております。社会への奉仕です。私は、当初は、そうかな、言伝え程度かと、いぶかりました。そのうち、自分がはずかしくなりました。民衆の中に、溶け込んでの生きた社会活動と認識とを新たにしたのを、記憶しております。

第二は、7. 任務のない空海の行間です。満濃池は、10 回以上通いました。現在でも、大手建設上場会社のいくつかは、新入社員の研修に、満濃池を訪問している由です。科学を越える直感の普遍的な設計デザインは、天才で片付けられる次元を超えております。私は、太子の生まれた善通寺から満濃池、そして、学生の直行するレオマ遊園地まで、決して車やバス・JR 乗り継がずに、走り、走り、疲れると歩いては、回りました。¹ 法蔵夫妻と同じ立場の両親あつての太子の誕生であると、善通寺の見学を繰り返しました。片道でも、満濃池にひかれた学生は、その果が働き盛りになって、かえっております。地形や人、生物の生きようのその場の空気をその都度感じました。広島の島根寄り山中との共感を覚えました。

4-3 神仏融合の世界観 (その 3)

10 May 2015

(その 3) も、実行としての見聞記になります。すでに、神仏融合の世界観 (その 1) に、23 日の持つ重みをお伝え致しております。ここでは、語り部に焦点を合わせます。毎月 23 日の 3pm から 30-60 分程度、時間に余裕のある参加者は、奥の部屋にて、お下がりの果物、菓子とコーヒーやノンアルコール飲料を頂戴します。交流の場です。打ち合わせも、今後の予定も、親睦を深めていきます。

そのなかに、原爆体験者の若い肉親も出席です。22 日について、23 日も、私は、語り部を報恩感謝の一つの実行として、一定の年齢になってから始めて、与えられた天寿を全うしたいという趣旨を話しました。そのために、語り部の仕方を折に触れ勉強する

¹ 終戦直後、餓死をまぬがれるために、授業のない週末には、1 泊で山口県尾根の東と西の鳳翻山の谷間で、炭焼アルバイトをしました。尾根の岩場あたりは、いつも霧がかかり、濡れた黒蛇がたむろしていました。走ると、左右に逃げてくれました。往復 32 km を短時間にこなすという生きるための羽目でした。暗くなってから、市内の闇市で、現金あるいは食物にかえて、配給だけなら必然の餓死をまぬがれました。配給だけを守った裁判官や警察官の餓死が新聞の一面に毎日出ていました。

Historic Variety on the Earth

意思を話しました。それは、いままで、個人の仕事に専念した罪滅ぼしとして、了解くださいと。

最近、マスコミでも、ようやく、戦争体験記が報道されてきております。戦中派の体験人口の急減も、報道されます。歴史は、人が作るのか、大自然が作るのかという論争があります。論争以前の事実、ひとりでも多くの若い世代が目を見開いて、行動に出るとき、日本は、世界平和の目にみえない担い手になっていきます。このことは、誰も、否定できません。そうして、はじめて、戦争犠牲者も、浮かばれ、平和に安心立命されます。それは、同時に、すべての国がそれぞれの国民性や個性、固有の文化をおおらかに維持することの別の表現になります。この共存は、理論=実行=歴史の内生システムの中、193-197 年間のエビデンスを計測して、証明したとおりです。

語り部という機能は、ゆったり、のびのびと育ちます。絶対神=大自然とともにあります。創造の神がもっとも強く、人類に自ら期待して、しかも、神から手を出さない「やさしさ」の対象です。宗教とか無宗教、あるいは、哲学論争というような領域から人類を開放します。海という字は、生み出す母と水との融合袋・融合体ですね。そのように、自分に言い聞かせて、はるかかなたの、有を無に、知足安分に思いを馳せます。

日本の文化・文明は数千年の個性を保持してきました。それは、農耕民族としてのユニーク性です。カンボジアは、平安初期に、あらゆる宗教・宗派・民族を融和させた平和の権化のような王が生まれ、人口 100 万人の都市を歴史に留めました。現地と日本の研究者との共同調査が進んでいると、NHK の報道番組にも、光が当たっております。

アンコールワットは、海を隔てた人と物資交流が幅ひろく続けられたのに、なぜ突然消滅したのでしょうか？王あるいはリーダーが absolute existence/Nature に近い、理念と実行力を推進できたからですね。小手先の政策は、決して長続きできない。100 年さきの姿を見据えた、おおらかな指導力こそ、双曲線平和哲学=歴史の具体化の真髄です。

5. 語り部への準備スタート：2月 21, 22, 23 日の 3 日間に

24 Feb 2015

2月 21 日(土): 中国新聞本社 UNitar, Hiroshima 国連講演会、Room 702, 2pm - 4:30pm

2月 22 日(日): 修径会幹事、加藤省吾夫妻・家族と同級生杉本さん、10am - 12:15pm

2月 23 日(月): 石鎚本教西教会、石内、12pm - 3:15pm

なぜ、上の 3 日間は語り部への準備点となったのでしょうか、と自問しております。その前ふれには、沖縄のひめゆりの塔参拝(27 Jan 2015, 別稿)がありますが、現実には、上の 3 日間は直接の機縁となりました。

2月 21 日(土):

母が被爆死の広島牛田出身の外交官を経て、国連の勤務、前後 3 回、23 年間におよぶ、大島前国連事務次長の講演会がありました。退官後の今は、自由の身です。国内の社会講演活動に、平和の重みを訴えております。講演終了後、質疑が続きました。参加者と

Hideyuki Kamiryo

事務局との間で、UNicef, Japanこそ、日本が国連加盟承認の前に、文化交流を通して、日本初の平和活動をするための核だというやり取りがありました。UNitarは、政治がらみで、妥協の産物という性格をもつためです。事実、国連事務局は、お金をUNitarに支出すると、もうUNicefにまで支出する余裕がないと、理解しました。私は、UNicef, Japanに対する認識のなさに、自戒の思いに駆られました。なぜこの講演会に出席したかのわけは、UNicefこそ、恒久平和活動の原点であるという認識をもつためでした。

質疑のおわりのほうで、中学3年生の男子から、「将来、なにをしたらよいのか、さっぱりわからない。是非、この機会に教えてください。」という発言でした。わからないのを気にすることは無いという返事と私は受け止めました。終了後、本人に3名の参加者が立ち寄りました。私も、ゆっくり寄って行って、一つの思いをしっかりと伝えることができました。その内容をここに記します。

「終戦の3月19日、名古屋大空襲のひる、瓦町の自宅から走って、母と鶴舞公園に避難した時のことです。空からの轟音に、母のいうことを聞かず、とっさに2mあまり体をシフト、母との距離が3m弱、その瞬間、その間に不発弾36の束が地中深く刺さりました。同時に、タテに大きな深い亀裂が入り、何人かが落ちこむ姿をみました。次の瞬間、その亀裂がふさがりました。私は、このような事実を繰り返して、九死に一生を得て、今日があるのです。たとえば、あなたは、将来、その気が出たとき、残り少ない語り部の年代を10年ごとに繋ぐ全国組織を作って、後世に、戦争の悲惨さを伝えてみては？」と。

2月22日(日):

修経会の幹事加藤省吾宅は、光南町にあります。久しぶりでした。ここ3年間、3冊(Better Advances Press, Toronto)に専念、すべての縁を断ち切ってきたためです。いろいろの自己反省会となりました。1960年に、Chemical Bank, New York, trainee 研修中、Christian Science, Boston を訪問した時を思い起こしました。なぜ訪問した？母が成長の家の本をよく読んでいて、そのなかに、自己反省を交流の公の場であることが詳しく記載されていたためです。どうも、若いときから、足で確認するのが、好きだったようです。好奇心は、男性の特権ですね。

自己反省会には、戦中派の80歳代前後の被爆者親族も、私のようにまじっておりました。そうだ、今年後半、このような人たちから、メモをとらせていただき、語り部の原稿に収めていこうと、決心しました。事実だけを正確に伝えることは、オープン情報の公明性・公平性に欠かせません。修道大学の校是、中庸 (moderation) の精神をもって、控えめに、事実を見据えようと決心した次第です。

恥ずかしいかぎりですが、勉強部屋も、3-6年もの間、写真、コピー、資料や本がヨコやタテに積み上げられたまま、今日をなんとか、むかえました。その革新的な整理・整頓を、ここ2-3日、続けております。本は立てるべしとは、整頓の要諦ですね。修経会発足当初の、大切に包まれた写真一葉を見つけました。林春樹会長はじめ、参加者が平等に若いのに、びっくりしました。ここに断りなしで、挿入することとしました。最

Historic Variety on the Earth

近は、個人情報という言葉がはやっていますが、社会との交流こそ、平和への普遍的な基盤だと思っております。それを言える資格のないこと、やっとわかったばかりです。

実は、本稿は修経会に残す意図でした。しかし、それには、一つ的前提が必要です。修経会に決してマイナスにならず、プラスになることです。その前提は、「仮に3冊の研究書(小出しに後述)が世間に確と受け入れられたならば」、です。取らぬ狸のなんとかの話です。収益をすべて修経会に帰属させるならば、内外からの中庸に近い論者を呼ぶことができます。家族はこの点、「なんでも実現するまで、たとえ家族に対しても、独り言をいうべきでない」と、やさしい仏が忽ちきびしい神に変身します。



2月23日(月):

大枠は、世界観にて、すでにまとめたところおりですので、重複をさけて、語り部の部分のみをお伝えさせていただきます。あと、懇親の場において、お願いした内容です。参加者の母親が爆心地から少し離れた牛田小学校3年生として校庭で目にした光景です。母親は、その校庭に次々に運び込まれてくる被爆者の姿を、ただただ凝視し続けたと。からだは焼けて、ぼろぼろになった衣類が少しだけ、肉のあいだにぶら下がっているありさまです。歩いてくる人も、つづきました。校庭全体が地獄さながらの光景です。これが人間社会に起きたのかと、見るほうも、見られるほうも、夢うつろです。

弘法寺のお師匠様が話されたことを、思い起しました。人をあやめると、地獄という場で、やすむ間もなく、うちのめされる、そのすさまじさ、筆舌にいいがたしと。戦いを起こすほうも、起こされるほうも、乗せるほうも、乗せられるほうも、平等にその責めを受けます。北野恵實猯下は、生きながらの菩薩の身として、いかに豊臣秀吉がお寺の北にある、三日月の地で、残虐な行為をしたことか、月の出ない夜陰に、村民が山名・赤名の出城に米を運んだとかで、見せしめに、生きた農民に、生の竹の切り口を刺

Hideyuki Kamiryo

して、尻に通し、逆さにして、山城の周囲に、まるく囲んだと、私は、直接、この耳で聞きました。

事実、弘法寺で、授業のない春・夏休みに、塔婆書きの手伝いをしていたとき、つかつかとお出でになって、私にこの杭の全面に、メモに書いた、これこれの字句と名を書き入れよ、と仰せでした。ところが、手が動きません。本堂に入って、無心になるべく、一時間ほど般若心経を唱えても、手が動きません。そうすると、惠實猊下は、そうじゃろ、と、秀吉が地獄で苦しむ姿を話してくれました。そのあと、その杭は、大切な場（チベットに似た千本の山地にある元町長先祖の墓の場所）に立てられました。その杭は、最近朽ち果てたため、8月のお施餓鬼供養あとの炎上供養にて、土に帰られております。

生き身は、体験すると、事実を事実として、納得します。そうでないと、信じろと云われても、内心では、疑います。生き身は、知足安分といわれても、金欲をむきだしにするのが当たり前です。地獄と極楽とは、紙一重という言葉思い出します。恵心僧都『往生要集』(1931, 永田文昌堂, 166)の109-110頁に、大好きな文言があります。引用させていただきます。

やうやく。弥陀如来の御前にいたり。七寶のきざはしに。ひざまずきて。萬徳の尊容をおがみたまつり。實の道をきして。普賢のねがいのうみに。いるよろこびのなみだ雨のごとく渴仰のこころ骨にとほる。はじめて佛果に入りて。未曾有なることをえたり。行者むかしは。娑婆において。わずかにおしえの文をよみ。あるいはききしが。今はまさしく此事をみる歓喜のところにいくばくぞや。龍樹菩薩の偈にいわくもし人善根をうえても。うたがえば。すなわち蓮華ひらけず。信心。清浄なるものは蓮華ひらけて。すなわち佛を見たまつる。

蓮華の花一つ一つは、7月下旬から8月上旬のなかの10間だけつぼみから花びらが散りおわります。この事実さえ、信心がないと、ということは、眞の真心こそという意味でしょう。完全に相手方の身になり切るといふ心をさすのでしょ。氣持ちが神のように入ることです。言うは易く、行い難し、です。



Historic Variety on the Earth



この余白に、本稿の目次を記します。

編集の全体は、21の項目から成ります。項目4のみは、4-1, 4-2, 4-3と分けました。項目5と項目6との間に、top levelの吉村徳則先生の風水稿を挿入できました。風水は、social sciencesの領域にあって、人間の生活に密着しているという事実からだけでなく、私自身、その人生に深く関わって、今日を得ているためです。その源は、私の永久の師匠、北野恵寶・真弘猯下から、ほどこしを受けたことに始まります。個人のみならず、公私のあらゆる組織でも、その栄えは、風水に照らす時、100%、どんな方でも、すべての事実をもって納得されます。恩人の一つ、修道大学も、風水に照らす時、末長く繁栄を約束されており。当時の市村太一学長にこの上なく感謝を申し上げます。

本稿は、『修道商学』に、別稿は『経済科学研究』に、期限の10月30日前に提出しましたが、不可の通知を受けました。の割り振りは、分野のいかんを問わず、『修道商学』に、邦文を、また、『経済科学研究』に、英文をとしました。双方の原稿にあげたのは、ひとつだけです。それは、英文ですが、例をみない自然派の歯科医院、Dr. Motohide Takemoto and dentist assistant, Horie, 竹本元秀, 堀江早苗, の手術を、世界に残すべきと考えたためです。

筆者は、この場で、緊急の(一刻も頭から離れない)事態を記すことを決意しました。澁谷工業(カ)(第一部機械上場企業)は、知る人ぞ知る、あらゆる産業分野で世界一を誇る機器メーカーです。その澁谷弘利社長は、医療機器分野の抜本的な改革にいま注力中です。その内容は、すでに、9月の株主総会の質疑のなかで、突っ込んだ応答がありました。薬品を用いるような一般的な方法ではなく、受信者の体内の細胞を用いるためです。山口大学との協同に始まった実験の蓄積が全国展開に向かいました。

Hideyuki Kamiryo

農業分野では、酸性雨が米作に危機的な不安を醸し出しました。いかなる農作でも、玄米がすべて酸性化するためです。それを克服する途は、福井県坂井市の黒田与一家族です。その土壌改造の発明は、歴史的にみて、人類の文明史のなかで、黒田与一家族が original であることを、筆者は、その筋に知られた、世界中でもっとも専門的な Hamilton Library, Manoa, Univ. of Hawaii,において、10月11-12日に、館長はじめ、specified librariansの一体となった協力のもと、三回目の確認ができました。

黒田与一家族は、(カ)エルゴンを通して国内外にピロール米販売しています。ひとは、その事実を口から口へと、直感的に知っています。いまの瞬間、筆者は、即刻、実行すべきという認識をもちました。あらゆる分野にわたる、世界一に経験を蓄積している澁谷工業(カ)の組織力を、国外のすべての国に普及させて、人類の絶える緊急事態 (weak-acid rice 食では、精子が本来の働きをしない) を避けることです。そのような責任は、農耕民族でも世界に例をみない日本こそが責任を負っている。

筆者は、昭和38年の北陸地方大雪以来、澁谷工業と澁谷家族に、あらゆる側面で、育てられてきております。広島に存在する(カ)東洋高压と野口賢二郎・琢史家族とも、筆者が広島修道大学に奉職以来、同じように、得がたい恩義に恵まれてきました。

『双曲線経済学』(published by Better Advances press (BAP), Toronto, 15 July 2015)も、そのほかのすべての公刊も、このような縁とともに実現できました。筆者は、パソコンのたたき手にすぎません。走馬灯のように、今日までの場面、場面が頭をよぎります。Dr. Yisheng Huang, Chief Editor, BAP は、海外の最大の恩人です。Yisheng には、いつも、このような巡りあわせを、感謝を持って伝えております。

Hyperbola とは、65年を越える縁が続いてきました。そのなかに滲む哲学ともいえるような思考体系は、balance, static and dynamic, beyond space and time です。よいことをその逆のことは、いつでも、みえても、みえなくても、起きています。なんら思い煩うことはありません。国民や市民の立場が仮に無視されても、その無視が強いほど、その逆もまた強くなります。理想は、中庸ですが、人類は、中庸(神・仏=原点)に近づくとはいえ、一体とはなり得ないという定めにあるようです。

12月1日、つぎの澁谷工業(カ)役員会があります。その時に、澁谷が果たすであろう緊急対応・対策を、同社社長室の開甲子久さん・河村孝志さんと相談することと思っておりました。ところが、28日、急きよ、11月23日(勤労感謝の日、月曜日)、広島アステールプラザ中会議室において、エルゴンによるピロール農法の勉強会へのインターネットに接して、出席の依頼をしました。そのため、上記の相談日(11月30日)を待つ時間的な余裕がなくなりました。とりあえず、eメールにて、河村さんに、相談したいわけです。ご了解ください。

多くの情報や文献に、共通する思考の最終目標はなんのでしょうか？この問いに対する解は、「平和」であります。その活字があっても、なくても、そのように、筆者は理解しております。それは、筆者が原爆を学徒動員中の朝礼にさなか、この両眼でみたから

Historic Variety on the Earth

ではありません。その原点は、師匠の恵寶猊下の話のなかには、直接出てきません。先祖供養の背後で、みずからわかるように仕向けられました。石鎚神社中宮社成就社においても、神仏融合の初の地球宣言を我が国で公・私の区別なく、宣言しておりますが、平和を表には出しません。人に真に理解していただくためと拝察しております。表に真正面から、「平和」を主導する組織は、五井昌久家族と田布施大神家族です。もともと、日本文明は、平和をもっとも大切にしてきたと、つくづく実感いたしております。



First Sunrise taken by great photographer Naito, one of writer's friends: Pan